

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	開田高原魅力づくり事業
事業主体 (連絡先)	木曾おんたけ健康ラボ 0264-24-0870
事業区分	(6) 産業振興、雇用拡大 (オ その他)
事業タイプ	ソフト事業
総事業費	811,360円 (うち支援金: 649,000円)

事業内容

年々観光客が減少している開田高原に新たな魅力あるスポットを作り、「また来たい、ずっと居たい。」と思ってもらえる開田高原になるよう当事業を行った。

地域の方など多くのボランティアと協力して、やまゆり荘の庭の一部をハーブガーデンに整備し、女性をターゲットとした健康と癒しの空間づくりができた。

今後は、ハーブを活用したリラクゼーションプログラムなども開発し、開田高原を訪れた方が「1泊してゆっくり、2泊してのんびり…」と滞在したいと思っていただけの観光地としての魅力を高めていきたい。



【 植栽の様子 】

【目標・ねらい】

- ①女性をターゲットとした魅力づくり
- ②地域の方の参加を促し、利用に繋げる
- ③観光客の増加

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

①②ハーブガーデンを整備するにあたり、地元の方から遠く松本市の方まで、多くのボランティアの方にご協力いただき行うことができました。

【植栽イベント参加者数：12名】

③観光客の増加に繋がるように、少しずつですが、魅力を高め、そして発信することができました。

※自己評価 【 C 】

【理由】

- ・リラクゼーションプログラム開発は予定通りに行うことができず、事業効果が半減してしまった。
- ・状況によって随時計画を見直しながら進める必要があった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

当初予定していたリラクゼーションプログラムの開発については、諸事情により予定期間内に行うことができなかったが、今後も引き続き開田高原の魅力を高められるようなプログラムの開発を行い、観光客の増加に繋げていきたいと思えます。また、魅力を高めることで「誘客→リピート→ファン→定住促進」と地域活性化の一つになるよう取り組んでいきます。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある